

科目名	情報システムⅡ			担当教員	篠山 学		
学年	情報5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	08I05_31150	単位区別	履修単位
学習目標	自然言語処理の基礎的な内容を理解する。プログラムなど人工的に作られた言語ではなく、自然言語をコンピュータに理解させる技術を学ぶ。また各技術について実際にアプリケーションとして使われている例を紹介し、自然言語処理への興味を持ってもらう。						
進め方	各学習項目ごとに内容の解説を行う。関連する例題を説明した後、実際に計算することで動作を確認し理解させる。また課題をレポートとして提出させるとともに、調べた内容についてプレゼンテーションさせる。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.自然言語処理の基礎(2) 2.形態素解析(4) 3.構文解析(4) 4.意味解析(4) 5.コーパスと統計処理(2)			自然言語処理とは何か、自然言語処理の意義や役割について身近な例を取り上げながら理解させる。D2:1-3			
	6.前期中間試験(2) 7.文脈解析(6) 8.言語理解と知識(6)			コンピュータに自然文を理解させるために用いられる技術である形態素解析について、その意義や仕組みを理解させる。構文解析、意味解析についても同様に理解させる。D2:1-3			
	9.前期末試験(2) 10.試験問題の解答と授業評価アンケート(2) 11.プレゼンテーション技法(6)			文脈解析について、照応問題などの問題例を提示しながら、基本的・基礎的な知識と仕組みを習得させる。D2:1-3			
	12.機械翻訳(4) 13.機械翻訳の手法(4) 14.後期中間試験(2) 15.課題プロジェクト(10) 16.発表(6)			人に自分の意見を伝えるための一つ的手段として、プレゼンテーションを取り上げ、基本的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。C4:1-8			
	17.学年末試験(2) 18.試験問題の解答(1)			自然言語処理の最大の応用分野の一つである機械翻訳について学ぶ。D2:1-3			
				自然言語処理の簡単なアプリケーションを作成できる。自分で作成したアプリケーションについて紹介できる。もしくは興味のある文献を読み、理解し、紹介できる。E1:1,2			
評価方法	定期試験50%、レポート&発表50%の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	教科書：天野 真家 著 「自然言語処理」						
備考	特になし						